

# じんけん へいわ

豊中 通イ言

No. 7  
2023.6



人権文化のまちづくりフェスタでの克明小学校太鼓クラブによる舞台発表と作品展示（豊中）



3階わくわくルームでの卓球の様子（豊中）



人権文化まちづくり講座「1人1台端末時代の子ども豊かな学びとは」(豊池)

編集・発行：一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会（豊中市委託事業）  
〒561-0884 豊中市岡町北3-13-7 人権平和センター豊中内  
電話：06-6841-5300 FAX：06-6841-6655  
Mail：bwz37306@nifty.com HP：http://toyojin.secret.jp/



# 1人1台端末時代の子どもの豊かな学びとは

2019年に政府は、子ども1人につき1台の端末の配布と、学校や家庭でそれを利用できるような環境整備をおこなう「GIGAスクール構想」を発表しました。3月28日に「1人1台端末時代の子どもの豊かな学びとは」をテーマに人権文化まちづくり講座が人権平和センター螢池でおこなわれ、弘前大学教育学部准教授の森本洋介さんから、政府がGIGAスクール構想を進める背景や課題についてお話いただき、また、参加者同士のグループに分かれての話し合いもおこなわれました。

## GIGAスクール構想の背景にある Society5.0の社会

GIGAスクール構想が始まって、自治体から小・中学生に1人1台の端末が配られました。この構想はコロナが原因で始まったように思われていますが、実は2019年度から始まっていました。元々コロナに関係なく進めていく政策として、当初は5～6年かけて整備していく予定でしたが、一斉休校が長引いたことなどが理由で前倒しになったのです。

今、日本政府がめざしている社会がSociety5.0です。この社会が実現した場合、インターネット上に存在する大量のデータをAIが解析し、我々にいろんな情報を提供してくれる。これはすでに多くの分野で導入されています。例えば電車の乗換検索では、乗車駅と目的地を入力するだけで経路をいくつか提案してくれる。他には、工場でのいろんな作業をAIがしてくれるということもほぼ実現しています。2013年にアメリカで出された論文では、今後10～20年程度（2023～2033年）で700ぐらいの職業のうち、半分は人間からAIに置き換わると

書かれていました。将来子どもたちの職業の半分が無くなってしまふ。だから、学力に対する考え方についても「AIを今後どう活用するのかっていう発想ができる人にしていかなきゃダメだ」という風に世界的に変わってきています。

こういうこともあって、日本政府としてもICT（情報通信技術）を使いこなせる人間を育てていく必要があるということで、Society5.0の社会をめざしていく中で、小・中学生の時から端末に慣れ親しんでおくことが必須なんだという背景があるということです。

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」は両立できるのか

2021年に出された中央教育審議会による答申『『令和の日本型学校教育』の構築をめざして』では、「個別最適な学びを実現」について書かれています。ICT（情報通信技術）を使って一人ひとりにあった学びを提供しようということです。

しかし、「個別最適な学び」と、社会性を育てるために日本の学

校がこれまで大切にしてきた「協働的な学び」をどう両立していくのか。ある学校では、グループの形で授業をしているのに誰も周りの子と話さず、ひたすら端末に向かって作業をしているといったことがありました。協働的ではなく、「孤立した学び」になってしまっている。端末を使うのが当たり前になっていることで出てくる課題です。こういった、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスをどうするかといったことがこれから問題になってくると思います。

## AIにできることではなく、人間にしかできないことを考える

国立情報学研究所の新井紀子さんの書籍『AI vs 教科書が読めない子どもたち』によると、AIは、基本的には与えられた条件の中で最適解を出すのは得意ですが、今



のところ数値化できることしか処理できません。それから文脈や意味を読み取ることもできません。

例えば「岡山と広島に行った」、「岡田と広島に行った」という文章があったとします。素直に考えれば、それぞれ「岡山県と広島県に行った」、「岡田さんと一緒に広島県に行った」になります。我々は、たった漢字一文字違いの文章でも全然文脈が違うということを理解できます。ところがAIは「岡山さんと一緒に広島県に行った」、「岡田という場所と広島という場所に行った」と読んでしまう可能性がある。条件が不明な場合や曖昧な場合にちゃんとした答えを出せないという弱点がAIにはあります。

また、新井さんによると、今のところAIが人間を超えることはありませんが、現在の日本人は読解力が危なくなってきていて、教科書の文章をきちんと読み取れないレベルの子どもが7割ぐらいいるそうです。AIや端末の使い方が習熟されていくことで新しい産業が作られていくと日本政府は言っているけれど、基本的な読解力の身につけていない人が7割いるなか

で、新しい産業ができていくのはちょっと無理なのではないかというのが新井さんの意見です。

私の個人的な見解を言うと、端末でやっていることは単なる作業の効率化です。画期的な新しい能力が育つことは考えられません。基礎的な力は地道に日々の訓練でやっていくしかない。

AIが得意なことを子どもたちに競わせるのではなく、考える力を地道に伸ばしていくなど、「人間しかできないことは何か」を考えていく必要があると思います。

### いろんな方向からじっくり考える力を育てていく

今、教育業界で話題になっているのがウェルビーイング（幸福で肉体的、精神的、社会的において満たされた状態を表す概念）です。ICTテクノロジーや「個別最適な学び」が、子どもがよりよく生きていくことに果たしてつながるのか。効率を追い求めることが本当に幸せに生きるための役に立つのか。私が問題提起したいのはここです。「協働的な学び」とは、ある意味で、我々が社会でどう生きて



いくのかを考える力を育てていくことです。一方「個別最適な学び」を追い求めるのは職業訓練の意味合いが非常に強いです。

私はメディアリテラシーは情報に対する思考力だと思っています。アナログだろうがデジタルだろうが、自分が情報とどう付き合うのか、自分で考えてどう情報発信していくのかということです。一番わかりやすいのが、「Watch carefully, Think critically.」という言葉です。慎重に読んで、いろんな方向から考えてみましょう。じっくり考える力を育てていくということ。今はいろんなところからやってくる情報に対してどう考えるのかという力を身につけて行くことが必要ではないかと思っています。いつの時代であっても人として大切な力はこういうことなのではないでしょうか。（文責：とよなか人権文化まちづくり協会）

## 嘉代子桜が花を咲かせました！

人権平和センター豊中老人憩の家南側にある「嘉代子桜」が花を咲かせました。この「嘉代子桜」は、長崎原爆で亡くなった当時女学生の林嘉代子さんをしのび、爆心地に近い長崎市立城山小学校に植えられたソメイヨシノで、平和意識の向上を目的に日本非核宣言自治体協議会によって取り組まれている桜の苗木配布活動を通じて豊中市に譲渡されたものです。

昨年2月18日に植樹されてから約1年、桜の木と呼ぶにはまだまだ小さく花びらの数もわずかですが、将来、豊中市の平和学習スポットの一つになることを願っています。



## 魅力あふれる豊中の都市創造をめざして

私たち「とよなか都市創造研究所」は、豊中市の持続的な発展と計画的な姿勢に資するため、豊中のまちづくりに大きな影響を及ぼす問題や課題について、中長期的な視点に立った調査や研究を行っています。

調査研究のほかにも、豊中市政やまちづくり・行政経営などの都市政策全般に関わる文献やデータ、関係機関の資料などを収集し、必要に応じて関係部局や市民に提供するデータバンク事業、調査研究内容や都市政策に関する様々な情報をホームページや刊行物を通じて発信・提供する普及啓発事業、そして職員の政策形成能力の向上や地域の活性化・課題解決を担う人材育成事業なども行っています。

令和4年度（2022年度）の調査研究などをまとめた機関紙「とよなか都市創造2023」を発行しました。本号の特集テーマは、「ソーシャル・キャピタルと子どもたち」。ソーシャル・キャピタル（人と人のつながり）は、子どもたちの健康や学び・育ちをどのように支えているのでしょうか。地域において子どもたちを支えるつながりの醸成について、論考やインタビューを通じて考え

ます。また、調査研究報告のテーマは、「健康と都市政策」。高齢化が進むなかでの「健康寿命」の延伸や社会経済状況の違いによる「健康格差」の縮小、さらにコロナ禍以降での「孤独・孤立」への対策など、市民の心身の健康をいかに支えていくかという課題は、基礎自治体において近年ますます重要になってきていると言えます。そこで令和4年度（2022年度）の当研究所の調査研究事業では、「健康と都市政策」を大テーマに掲げ、3つのテーマに取り組みました。本号ではその成果として、「孤独・孤立」「地域づくりと健康づくり（社会的処方）」「健康データの利活用」について研究員による報告を掲載しています。

機関紙は、とよなか都市創造研究所のホームページに掲載しているほか、当研究所に配架しております。お気軽にとよなか都市創造研究所にお立ち寄りください。

（都市経営部とよなか都市創造研究所）



### 写真 DE 紹介

人権平和センター豊中・螢池では、本紙で報告した催し以外にもさまざまな講座や取り組みを実施しています。興味のある方は、ぜひ、ご参加ください。見学も可能です。



2.8 「トークマインド」



2.14 啓発パネル展「公害から私達は何を学ぶのでしょうか」



3.17 「地域交流事業ほっとス」

# 人権平和センターに遊びに来てね！

人権平和センター豊中・螢池では、市内の小・中学生、高校生を対象に、出会いの場やふれあいの場としての居場所を提供しています。遊びや学習も含めた様々な体験・交流の機会を持つことで、こどもたちの自己肯定感や自尊感情を育むとともに人との関わりやつながりの中で人権感覚を磨き、自分らしく生きる力を育む機会としています。ぜひ遊びに来てね！

## わくわくルーム（人権平和センター豊中内）

2023年4月から活動場所が3階に変わり、新たに卓球ができるようになりました。また、工作や体験活動なども企画中です。他にも不登校の子どもが自由に過ごせる**フリースペース**（月曜日～金曜日 10時～18時）があります。

電話：6841-5300 開設日・時間：月曜日～金曜日は15時～18時、土曜日と春休み、夏休み、冬休みは10時～18時



協会 HP

## ほたるふれあいセンター（人権平和センター螢池内）

2023年4月から中学生を対象に、勉強やスポーツなど好きなことをして過ごせる居場所として**ほたるふれあいセンターたまり場**（火曜日～金曜日 18時～20時）が新たにオープンしました。

電話：6841-2315 開設日・時間：月曜日は10時～18時、火曜日～金曜日は15時～20時（小学生は18時まで）、土曜日と春休み、夏休み、冬休みは10時～17時



協会 HP

主催：一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会（豊中市委託事業）



3. 2 「廃材を使ったワークショップ」



4. 15 人権文化まちづくり講座  
「地域を学び地域をつくる」



4. 22 人権文化まちづくり講座  
「歩いて学ぶ部落問題」



5. 9 「おりがみ広場」



5. 16 「音読講座」

# 人権文化のまちづくりフェスタが開催されました！



「登録サークルによる舞台発表」



「軽食コーナー」



「作品展の様子」

第20回“ひと・まち・であい”人権文化のまちづくりフェスタが2月27日（月）から3月5日（日）に開催されました。地域で活動している団体、こども園、センター登録サークルなどの作品や紹介パネル展示や最終日の交流のつどいでは、克明小学校の太鼓クラブによる「屋台囃子」の演

技から始まり、こども園やセンター登録サークルなどによる舞台発表で盛り上がりました。また、4年ぶりに軽食・手作りおもちゃのコーナーも復活し、たくさんの方に楽しんでもらいました。フェスタの進行にご協力いただいた皆さまありがとうございました。（人権平和センター豊中）

## 困りごと、悩みごと ひとりでかかえていませんか？

これって人権侵害かと思ったら…

### 人権相談

電話 06-4865-3655



日常生活での不安や困りごとは…

### 総合生活相談

電話 06-4865-3713



月曜～金曜日の9時～17時

※祝日・年末年始は除く

面接での相談は事前予約が必要です。まずはお電話ください。  
FAX、メールでの相談は24時間受け付けています（対応は上記時間内）

# インフォメーション

<p>じんまち☆シネマ 6月10日(土) ①10時～②14時～</p>	<p>映画「おくりびと」(1日2回上映) 会場：人権平和センター豊中 (とよなか人権文化まちづくり協会 自主事業)</p>	<p>偶数月の第2土曜日に実施し ている映画上映会 定員：各100人(申込不要)</p>
<p>2023年度世界人権宣 言豊中連絡会議記念講 演6月15日(木) 14時30分-16時 30分</p>	<p>これからの部落問題について考える お話：岡本工介さん(一般社団法人タウ ンスペースWAKWAK事務局長) 会場：人権平和センター豊中</p>	<p>水平社宣言から100年を機に 部落問題の現状や課題、今後の 取り組みについて考える講座 定員：40人(要申込)</p>
<p>人権文化まちづくり講座 6月21日(水) 14時-16時</p>	<p>集まって話そう～地球の環境、私た ちの未来～ お話：山崎博文さん(豊中市民エネ ルギーの会理事) 会場：人権平和センター豊中</p>	<p>近年の深刻な気候変動を含めた環 境問題を正しく理解・認識すると ともに自分や地域でできる取り組 みについて考える講座 定員：40人(要申込)</p>
<p>人権文化まちづくり講座 7月15日(土)、7 月22日(土) どちらも14時-16時</p>	<p>「ふつう」って何？メディアが伝える 「当たり前」を読み解く(仮) お話：西村寿子さん、田島知之さん (NPO法人FCTメディア・リテラ シー研究所) 会場：庄内公民館(庄内幸町4丁目 29-1)</p>	<p>ジェンダーやマイノリティの視 点でテレビCMやニュースを 見ながら、メディアが私たちに 何を伝えようとしているのかを 参加者同士で読み解き、話し合 う講座 定員：各40人(要申込)</p>
<p>人権文化まちづくり講座 8月1日(火) 18時30分-20時 30分</p>	<p>反貧困学習(仮) 山田勝治さん(大阪府立西成高等学 校・校長) 会場：人権平和センター豊中</p>	<p>身近にある格差や貧困問題につい て考える「反貧困学習」を学校で 展開してきた講師とともに、地域 でできる子どもや保護者への支援 について考える講座 定員：200人(要申込)</p>
<p>人権文化まちづくり講座 9月29日(金) 18時30分-20時 30分</p>	<p>非部落民の部落問題(仮) 内田龍史さん(関西大学社会学部教 授) 会場：人権平和センター豊中</p>	<p>マジョリティとしての非部落民によ る部落差別撤廃のための行動や部落 問題の解決の主体としての非部落民 のあり方について考える講座 定員：各40人(要申込)</p>

人権文化まちづくり講座の申込みは、(一財)とよなか人権文化まちづくり協会のホームページからも可能です。

## 貸室のご案内



人権平和センター豊池では、2023年7月1日からホールの利用料金が改定されます。

部屋名 \ 時間	午前9時～ 午前12時	午後1時～ 午後5時	午後6時～ 午後10時	午前9時～ 午後10時
ホール（180人）	2,800円	3,600円	3,600円	10,000円
改定後のホール利用料金	4,200円	5,400円	5,400円	15,000円

人権平和センター豊中・豊池の貸室料金や利用方法の詳細についてはそれぞれ豊中市のホームページからご確認ください。

人権平和センター豊中  
岡町北3-13-7  
TEL：06-6841-1313  
FAX：06-6841-1310



豊中市 HP

人権平和センター豊池  
豊池北町2-3-1  
TEL：06-6841-5326  
FAX：06-6841-8899



豊中市 HP

## 人権平和シアターのご案内

戦争を知らない世代に戦争体験を語り継いでいくため、豊中空襲や広島・長崎での被爆体験などの証言映像を市ホームページで公開しています。

昨年度、新たに7組8人の皆さんに証言していただきました。6月中に公開を予定しています。

平和の大切さを考え続けていきましょう。



豊中市 HP



### ●あとかぎ●

コロナ禍に見舞われて4年目となる今年は、感染対策等が徐々に緩和・解除されていき、今ではマスクの着用も個人の判断に委ねられるようになりました。感染リスクがなくなったわけではないので、まだまだ油断は禁物ですが、少しずつでもコロナ前の日常を取り戻していきたい思います。

昨年、豊中市の「みどりのカーテンプロジェクト」でゴーヤを栽培した場所に、ビスカリアという花の種を植えました。綺麗な花が咲いたので、ぜひ、見に来てください。（まちづくり協会事務局）

